

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク	
施設名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」	
内定額	24,391	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		360	359
年間事業本数（※1）	主催事業	12	12
	公演事業	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	人材養成事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	普及啓発事業	6	6
	（内、本助成対象事業本数）	0	3
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	291	309
	ホール名：ホール1 座席数：238	0	0
	ホール名：ホール2 座席数：256	291	309
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	17,242	19,500
	公演事業	8,041	9,486
	人材養成事業	2,831	4,500
	普及啓発事業	6,370	5,514
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	48,404	51,312
	その他 内容： 提携事業入場者・けいこ場利用者数	130,387	132,551
	計	196,033	203,363
施設の利用率(%)		91.9%	93.4%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	4	61	8,041	74.0%	3	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	25	178	22,472	61.3%	19	0	3	0	1	2	0
	貸館公演（※3）	209	384	48,404	66.9%	28	32	27	4	77	1	40
	計	238	623	78,917								
令和6年度	主催公演（※1）	4	60	9,486	83.9%	3	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	24	178	22,836	60.9%	17	0	2	2	1	2	0
	貸館公演（※3）	210	377	51,312	53.1%	33	40	21	1	74	7	34
	計	238	615	83,634								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	世界をみよう！	目標値	1,280	80.0%	観客の満足度	アンケート4段階評価上位2段階が70%以上	93.7%	・観客アンケートで左記のような段階評価の項目を設けたのは初めてだったが、結果において目標としていた観客の満足度とリピーター率を大きく上回る成果をあげた。	
		実績値	1,513	84.5%	リピーター率	アンケート回答「初めて」ではない人20%以上	36.2%		
公-02	劇場へいこう！	目標値	5,400	75.0%	観客の満足度	アンケート4段階評価上位2段階が70%以上	92.3%	・観客アンケートで左記のような段階評価の項目を設けたのは初めてだったが、結果において目標としていた観客の満足度を大きく上回る成果をあげた。	
		実績値	6,374	88.0%	引率の先生の事業評価度	アンケート3段階評価上位1段階が75%以上	84.6%		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	・観客の満足度	全主催公演事業でアンケート4段階評価上位2段階が70%以上、アンケートで好評価を得る	・世界をみよう！ 93.7% ・劇場へいこう！ 92.3% ・音楽企画 84.8% ・ピアノと物語 アンケートで設問を設定しなかったため、計測不可能	・公演事業の全事業において、目標としていた観客の満足度の目標値を達成した(アンケート集計結果より)。ただ、1演目(助成対象外事業)において段階評価の設問を設定せず計測不可能だったので、今後は計測できるよう努めたい。		
	・劇場回数券「なみちけ」の販売枚数	前年度より5%増	1,380枚(R5)、1,712枚(R6) +24%	・安価な劇場回数券システム「なみちけ」の販売枚数は、令和5年度と比較し、目標値を上回る販売枚数を達成することができた(販売枚数集計結果より)。増加の原因は、物価高騰によるチケット料金の全般的な値上がりを受けて割安な回数券を求める観客が増えたことと、劇場のプログラムの充実により観客数が増えたこと、の2点が考えられる。		
	・専門家による劇場プログラムへの評価	ヒアリングや評論等で概ね好評価を得る	好評価を得た(団体の自己評価、下記エピソードに記載)	・「(新芸術監督の人選を公開していくという選考の)”開かれ方”によって決まった新芸術監督就任が期待を持たせるプログラムにつながったと言える」といった意見をいただき(「継承と持続」西堂行人／「テアトロ」1030号)、今後も開かれた多様なプログラムを目指したい。		
人材養成事業	育成対象者の研修後の反応	アンケートで好評価を得る	アンケートで概ね好評価を得ると共に、今後の課題を把握できた。	・「劇場創造アカデミー」の育成対象者には、1年間の研修後すべての授業において①講師の授業進行について ②授業内容への自身の関心度や感想 ③他授業とのつながり、重複、広がりについて、という項目でアンケートを行ったところ、概ね好評価を得たが、スケジュールの組み方、授業内容によっては実施時期の変更などについての意見もあり、来年度へ向けて改善していきたい。		
	指導者による評価	成果と今後の課題を把握する	成果と今後の課題を把握できた(団体の自己評価に記載)	・「劇場創造アカデミー」の講師に、担当授業とアカデミー全体について成果と今後の課題についてリサーチを行ったところ、「アカデミーにて様々な舞台芸術体験をすることで、演技を拡張し、次世代の舞台芸術にポジティブに向かっている場として、日本に必要なアカデミーとなっている」「伝統芸能から応用演劇まで領域横断的に集中して学べる場として、また実践と批評・研究の両面が組み合わさっていることも重要」といった好評価をえている一方で、世界的にも質の高い教育機関を目指すために、カリキュラムのアップデート、講師同士の情報交流、社会や地域へ出ていく志向の必要性について指摘をいただき、来年度以降に向けて、更に充実した人材養成ができるよう、改善していきたい。		
普及啓発事業	全事業の参加者数	全事業で参加者数の目標値を達成	・遊ぼうよ！ 目標値3,655人 実績4,068人 ・大人のための演劇ワークショップ 目標値95人 実績121人 ・水曜日はカフカを 目標値55人 実績34人	・普及啓発事業の全事業において、当初目標としていた参加者数を概ね達成することができた。達成できなかった「水曜日はカフカを」は、60歳以上を対象としたワークショップであるが、年度のはじめに開催したことによる宣伝不足が原因と思われるので、来年度へ向けて改善していきたい。		
	参加者の反応	アンケートで「また実施してほしい」または「また参加したい」と回答する人が60%以上	・大人のための演劇ワークショップ また参加したい 100% ・水曜日はカフカを また参加したい71.4%	・一般の大人を対象とした「大人のための演劇ワークショップ」と65歳以上を対象とした「水曜日はカフカを」については、参加者の満足度がとても高く、事後のアンケートで「また参加したい」と回答する人が予想以上に多かった。今後は内容の質を落とさずに、できるだけ多くの方が参加できるような仕組みを考えていきたい。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(新芸術監督就任によるプログラムの広がり) ・令和5年度の座・高円寺の年間プログラムを発表する「プログラム説明会に参加した専門家のひとりより、選考過程が公開されるという方法で決まった新芸術監督就任が期待をもたせるプログラムにつながったのではないか」という考察があり、今後も開かれたプログラムを継続できるよう創造力、企画力を高めていきたい。 「(中略)今回の芸術監督の選考が厳密だったのと同様に、プログラムの選考も公正かつ健全さを感じた。公募制の企画の中から、今回選ばれたのは新規の企画団体が多く、その大半は未見の団体だったが、説明会を聞いて期待が持てそうなプロダクションばかりだった。(中略)(芸術監督の人選があくまで非公開で決定されてきた他公立劇場に比べて)座・高円寺のガラス張りに公開していく選考は、画期的だった。そうした”開かれ方”によって決まった新芸術監督就任が期待をもたせるプログラムにつながったと言える。」「(「継承と持続」西堂行人／「テアトロ」1030号)

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・海外カンパニーの招聘作品数 ・海外アーティストとの共同制作作品数 ・観客の反応	3作品 2作品 アンケートで海外作品を「また観たい」と回答する人が60%以上	3作品(『どろんこ』『ごきげんなライオン』『トーン』) 2作品(『小さな王子さま』『宮殿のモンスター～モンスター・イン・ザ・ホール～』) 93.1%(「世界をみよう！」アンケートより)	(国際プレゼンスの向上と交流) ・海外の芸術団体と協力し、小さな子どもも鑑賞できる作品を集めたフェスティバル「世界をみよう！」では、フランスからサーカスアーティストの作品『どろんこ』、デンマークから人形劇『ごきげんなライオン』とインクルーシブな作品『トーン』を招聘し、地域の親子に観劇デビューを促し、楽しんでもらうことができた。 ・小学生以上の子どもたちを対象にした作品『小さな王子さま』では、イタリアの演出家・脚本家テレサ・ルドヴィコと美術家ルカ・ルッツァと日本のスタッフや俳優、ダンサーと共に国際共同制作を行なった。3年目を迎える本年は、演出家を招聘し、作品の再創造を行うとともに、公演後に小学生たちに作品の意図を伝えたり、質問を受けたりする機会を設けた。 ・また、劇場創造アカデミー修了生による公演『宮殿のモンスター～モンスター・イン・ザ・ホール』では、韓国より演出家・劇作家ソン・ギウンと演出助手チェ・ヨンホを招き、作品の創造を行なった。当事業で海外の演出家に演出をしてもらうは初の試みだったが、アカデミー生にとって大きな経験となった。今後もこのような共同制作や交流の形をアカデミーとしても探っていきたい。 ・「世界をみよう！」のアンケートでは、海外作品をまた観たいと回答する人の値が、満足度(①創造性・企画性参照)とともに非常に高く、今後も本事業に対するニーズが感じられた。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(国際交流の広がり) ・人材養成事業のひとつである劇場創造アカデミーの修了生による公演では、演出家に韓国で活躍する脚本家・演出家のソン・ギウンを招いて、創造活動を行なった。当初は予定されていなかったが、ソン氏はソウル芸術大学で教鞭をとっており、ソウル芸術大学の学生を海外研修として受け入れてもらえないかという申し出があり、選考の結果3人の学生を1ヶ月間、受け入れることとなった。彼女たちは、公演の稽古に参加すると共に、劇場のワークショップ事業やアカデミーの授業に参加し、その積極的な態度は、座・高円寺のスタッフ、アカデミー生にとって大きな刺激となり、彼女たちからの提案によって生まれた企画も実行した。 この経験を踏まえて、来年度以降も劇場とソウル芸術大学との交流を続けることとなり、令和6年度も研修生を受け入れる予定である。 ・人材養成事業のひとつである「座・高円寺ダンスアワードⅡ」は、日本の大学生の創作ダンスの作品と、国立台北芸術大学から創作ダンスの作品を3作品ずつ招聘し、アーティスティック・ディレクターや劇場の技術スタッフによるアドバイスのもと、座・高円寺において作品の再創造を行い、ヴァージョンアップした作品に仕上げて上演するユニークな企画。上演にとどまらず、日台両機関におけるダンス等の研修、創作環境についての意見交換を行い、創作ダンスに関わる次世代の人材を総合的に養成することを目的としているが、参加した大学生からは「座・高円寺ダンスアワードの臺北芸術大学ダンスキャンプを通して、初めて海外と海外のダンスを直に触れました。ダンス関係なく、言語と文化の共通点と違いをたくさん感じ、言葉で表せないほど刺激になりました。また、日本でのダンスコンクールは受賞を目標に作品創りを行い、受賞をするかしないかで終わるものがほとんどです。しかし、ダンスアワードでは受賞後、他受賞作品と共にブラッシュアップをする時間を濃密に設けてくださっていたおかげで、作品を創るプロセスや作品やダンスに対する想い、人柄を知ることができました」という感想をもらい、国際交流の広がりに寄与していると実感できた。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・ボランティアの数(高円寺びつくり大道芸)	前年度実績＋10%	77人(R5)、105人(R6)　＋36%	(児童生徒への機会提供) ・小学生以上の子どもを主な対象とした作品を2つ創造して上演する事業「劇場へいこう！」では、一般公演において中学生以下を無料にして、家庭の経済的負担を減らし、子どもたちの観劇を促進した。また、一般公演に加えて、教育委員会と協力して、区立の小学校全校40校と私立校1校の4年生が劇場へ来て、団体鑑賞する公演を行い、児童への観劇の機会を提供した。 さらに、希望校には、観劇後に舞台の裏側見学、出演者が学校へ出かけてワークショップを行うアウトリーチプログラムも行なった。 (ホール利用サービス(貸館事業)の向上) ・貸館利用者に行なったアンケートでは、事務室職員の説明及び対応、舞台スタッフの説明及び対応について、目標を大きく上回り、5段階評価で上位2段階が90%を超える結果となった。この結果に慢心することなく、引き続き利用サービスの向上に努めたい。		
・団体鑑賞に参加する区内小学校数	区立小学校全40校、私立校1校	区立小学校全40校、私立校1校(R6)			
・団体鑑賞に参加する区内小学生人数	3000人以上	3,937人(R6)			
・アウトリーチプログラムに参加する区内小学校数	小学校5校以上	2校(R6)			
・職場体験等の受け入れ数	5校以上	6校(R6)			
・子ども対象通年ワークショップの区民参加率	60%以上	68.3%(R6)			
・子ども対象通年ワークショップのリピート率	60%以上	67.0%(R6)			
・貸館利用者における職員の対応に対する満足度	アンケート5段階評価上位2段階が75%以上	93.2%(R6)			
・ホール2(貸館専用ホール)利用率	80%以上	87.4%(R6)			

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(地域文化拠点としての役割を確認する) ・「劇場へいこう！」の2作品『夏の夜の夢』と『小さな王子さま』を児童と一緒に観劇した小学校の先生から、以下のような意見をいただいた。 地域の文化拠点としての役割を確認するとともに、先生の働き方改革による負担の軽減や開演時間の調整、暑さ対策など検討すべき点を踏まえ、継続していきたい。 「テレビやビデオなどではない生の舞台を観る機会がほとんどない児童も多い中、この演劇鑑賞教室はとても貴重な行事であると思います。アフタートークで、ついさっきまで舞台上で演じていたキャストの皆さんとお話する時間を設定して頂けているのも子どもたちにとって嬉しい体験でした」「初めて演劇鑑賞教室の引率をさせていただきました。SNSをはじめ様々な方法で自分のことを発信できる時代、小学生でも得意とする子、苦手とする子、二極化が進んでいるように感じます。今回の劇を通し、身体表現の楽しさや魅力が伝わったとともに、仲間と一つのものを作り上げる面白さ、難しさにも気付いた子がいたと思います。テレビやネットではなく目の前で同じ空間・時間を共有する大切さを改めて感じました」「劇を見るだけでなく、演劇や(自分たちの)キャリア教育などへも影響を与えてくれたと思う」「子どもたちの感性が磨かれるだけでなく、鑑賞のマナーについても指導を入れることができ、一般的な教養を高めてあげられる機会となりました」「区内全校を招待してくださりありがとうございます。大変だとは思いますが、「演劇を見る」ということがこれが初めてという子も多くいました。これをきっかけに見始める子が出てくることもあると思います。ぜひ続けていただきたいです」 ・また、一般公演のアンケートでは、「息子が学校で来た際に感動し私ともう一度行きたいと言ってくれました。素晴らしかったです」「子どもが授業の一環として見せていただきました。とても面白かった！と言ってもう一回見たいとのことで見に来ました」というエピソードが寄せられ、授業での観劇体験がもう一度観劇したいという文化体験の好循環を生んでいることが感じられる。 ・毎年小学校や中学校からの職場体験の児童や生徒を受け入れているが、支援学級の生徒の児童も受け入れている。今年は生徒を受け入れるだけでなく、当劇場のスタッフが学校へ赴き、オリジナルスイーツの作成補助、販売の補助を行い「生活単元学習」に参加し、地域の文化拠点としての役割を更に広げた。
--

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・小さな子ども(未就学)と一緒に観ることのできる作品数	4作品	4作品(世界をみよう！)	(プログラムの多様さ) ・公演事業では、小さな子どもと一緒に見ることのできる作品を集めたフェスティバル「世界をみよう！」、中学生以下無料で就学児を主な対象とした作品の上演「劇場へいこう！」、人材養成事業では、大学生を対象とした「座・高円寺ダンスアワードⅡ」、普及啓発事業では、小学生向けのワークショップ「みんなの作業場」、中高生向けのワークショップ「じっくりものづくり塾」(助成対象外事業)、シニア向けのワークショップ「水曜日はカフカを」、当館以外でのアウトリーチ・ワークショップなど、幅広い観客や参加者の訴求に努めた。 (参画者の多様さ) ・主催公演「夏の夜の夢」では、ろうアーティスト西脇将伍、提携公演では、LGBTQのアーティスト団体フライングステージによる作品の上演、劇場創造アカデミーではろうアーティスト大橋ひろえを講師として依頼、また日本以外に6カ国からアーティストが主催公演に参画するなど、参画者の多様さに努めた。 (アクセシビリティ) ・令和5年度と比較して、託児サービスの設定日の増加、障害者割引の利用者数の増加がみられた。字幕タブレットの貸出、アウトリーチワークショップの実施なども行なったが、更なる充実を測っていきたい。		
・中高生以下無料の作品数	2作品	2作品(劇場へいこう！)			
・子ども(小学生)に向けたワークショップ数	年間40回	年間45回(みんなの作業場)			
・青少年(中高生)に向けたワークショップ数	10回	15回(じっくり物作り塾)			
・シニア世代に向けたワークショップ数	10回	11回(水曜日はカフカを)			
・域内外でのアウトリーチ事業の実施回数	30回以上	22回(主催公演3作品によるワークショップ)			
・当館以外での自主企画作品の実施 作品数／会場数	5作品／15会場	5作品／17会場			
・主催・提携公演における託児サービス設定日数	年間60日以上	71日			
・主催事業におけるろうアーチストの雇用	1人	1人(夏の夜の夢)			
・人材養成事業におけるろうの講師の雇用	1人	1人(劇場創造アカデミー)			
・主催・提携公演における障害者割引の利用者数	150人以上	183人(R6)			
・主催・提携公演におけるLGBTQのアーティストによる作品	1作品	1作品(フライングステージ)			
・主催公演における・参加海外アーティストの国籍数	6か国	6か国(フランス、ベルギー、韓国、イタリア、デンマーク、スウェーデン)			

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(参加者の多様性と新たなアクセシビリティへの取り組み) 新芸術監督の演出する作品『夏の夜の夢』では、出演者のオーディションを行い、400人を超える応募があった。その中にはろうの俳優が数人おり、最終選考でバック役に西脇将伍を採用し、通訳者を交えての稽古の進行に取り組み、ろう者と聴者が一緒に舞台作品の創造を行なった。観劇した小学校の引率の先生からは、「本校では4年生で福祉の学習をしており、手話の学習に取り組んでいる子たちもいます。西脇さんが役者として活躍していることは、子どもたちの視野を広げていただけたように感じています」「様々な人が活躍できる社会になっていると感じました」という感想をいただき、今後も、舞台芸術の世界で多様なアーティストが活躍できる環境を作っていきたいと思った。 また、ろうの観客に向けて、全公演で字幕タブレットを初めて導入した。今後は「舞台手話通訳をつけるなど、ニーズに合わせた工夫を続け、あらゆる人々と実演芸術をつなぐきっかけを作っていきたい。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
(持続可能性、創造的循環)持続可能な運営のために、舞台芸術における環境サステナビリティについて考え、協賛金・寄付金の獲得に努める。また、人と文化が循環する場づくりを目指す。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・持続可能な舞台芸術に関する研修の実施	全スタッフ向けに1回	全スタッフ向けに1回	(持続可能な舞台芸術) ・座・高円寺で働くすべてのセクションのスタッフと劇場創造アカデミーの受講生を対象に、大島広子(一般社団法人Image Nation Green)を講師に招き、持続可能なプロダクション製作と運営についての研修を行なった。日常業務の中で、現状これまでに実現できている環境負荷を減らす取り組みと、今後できそうな取り組みについて、具体的に話し合い、セクションや立場を超えて課題を共有することができた。		
・協賛金寄付金獲得件数	40件	52件			
・人材養成事業の育成修了者の雇用	3人	2人(R73月現在)			
・普及啓発事業過去参加者が、新企画いにおいて立案メンバーとして参画する人数	10人	13人	・また、一度作った作品をその年だけの上演で終わるのではなく、複数年に渡って上演することは、作品が円熟し多くの観客と出会う機会が増えるだけでなく、舞台装置などの経費の削減や環境の負担軽減につながるので、レパートリー作品の上演を続けていきたい。		
・レパートリー作品数	5作品	5作品	(持続可能な経営) ・指定管理料だけに頼らず、毎年協賛金の獲得に努めているが、令和6年度は、目標数を超える企業や個人から協賛金を得ることができた。今後も継続して協賛いただけるよう、事業の充実に努めたい。 (持続可能な人的循環) ・人材養成事業「劇場創造アカデミー」の育成修了者を雇用したり、開館以来毎週日曜日に小学生を対象に行っているワークショップ「みんなの作業場」に参加した子どもたちが、中学生や高校生、大学生になって、他の事業の参画に加わったり、アルバイトスタッフとして事業の運営の補助をするなど、開館から15年ほど経った今、人材の循環が行われ始めており、長期的なウィジョンを持った運営の必要性を感じている。		

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	○					
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	ホームページのセキュリティ、システムの老朽化	今年度中にホームページをリニューアルする	担当職員の退職などにより作業が予定通りに進まず、R6年度中のリニューアルが実現できなかった。	セキュリティや情報提供を強化するため、できるだけ早いリニューアルを目指す。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	○					
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	○					
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	○					
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	○					
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	○					
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	○					
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	○					
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	○					
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	○					
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	○					
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	○					
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	○					

4. 総評

・団体の自己評価

◆R6年度は、当館のミッションやビジョンを踏まえた自主事業を展開し、公演事業の実績記録→S

①創造性・企画性 公演事業→S、人材養成事業→A、普及啓発事業→A

②国際性→S

③地域文化拠点機能→A

④多様性とアクセシビリティ→S

⑤持続可能性・創造的循環→A

以上の評定の結果、すべての活動において、概ね当初の目標を達成することができたと言える。

◆公演事業においては、観客層を未就学まで広げ国内外からノンバーバルの作品を集めたフェスティバル「世界をみよう！」や子どもたちが家庭環境や経済状況によって、劇場に来る格差がでないよう、中学生以下の子どもたちを全員無料招待した「劇場へいこう！」といった地域のニーズを踏まえた企画を行い、観客アンケートの満足度で目標値を上回る成果をあげ、当館としての独自性を示すことができた。

◆人材養成事業では、「劇場創造アカデミー」の講師にリサーチを行ったところ、「伝統芸能から応用演劇まで領域横断的に集中して学べる場として、また実践と批評・研究の両面が組み合わさっていることも重要」「アカデミーで様々な舞台芸術体験をすることで、演技を拡張し、次世代の舞台芸術にポジティブに向かっていける場として、日本に必要なアカデミーとなっている」といった好評価をえている一方で、カリキュラムのアップデート等の必要性について指摘され、来年度以降に向けて、停滞せず更に充実した人材養成ができるよう、改善していきたい。

◆事業横断的に、韓国からのインターン生の受け入れ、ろうアーティストや講師の雇用、海外アーティストの招聘や共同制作、ろう者の観客のための字幕タブレットの貸し出し、支援学級児童の職場体験の受け入れ、「劇場創造アカデミー」修了生の雇用、普及啓発事業に参加していた子どもたちが大きくなって他の事業にスタッフとして参画するなど、多様な人々が集まり、人と文化が循環する持続可能な場づくりを目指した。

◆来年度以降は

ヴィジョン1「多様性、そして共生へ」:すべての人に開かれた、多様性を内包する劇場として、国籍、性別、障がいなどあらゆる属性を超えて、様々な人が集まり、共に生きる劇場を目指す。

ヴィジョン2「広く、そして遠くへ」:座・高円寺の取組や育成した人材を、杉並区内でまだ出会っていない人々や施設、区外、国内外へ届け、地域コミュニティや国際社会の発展に寄与する。

以上の点を更に実現してけるよう、各事業に取り組んでいきたい。

・所見

